

【別紙様式 3】

再評価実施事業調書

番号	2	事業名	社会資本整備総合交付金（街路事業）		路線又は箇所名等		市川都市計画道路 3・5・26号鬼高若宮線		
事業所管課		道路整備課		事業主体		千葉県			
事業化年度	平成 11 年度	用地着手年度	平成 12 年度	工事着手年度 工事終了(認可)年度	令和元年度 令和 14 年度	再評価の理由	再々評価		
費用便益比 B/C	1.3 (7.9)	総費用	120 億円 (20 億円)	総便益	159 億円 (159 億円)	基準年	令和 5 年度	供用開始 年度	令和 15 年度

※上段：全体事業 下段（ ）：残事業

【事業概要】

（目的）

本路線は、市川市と印西市を結ぶ幹線道路であり、京成本線との踏切による遮断により、渋滞が激しく円滑な交通の流れを阻害している。本路線は通学路に指定されている区間もあり、歩道がなく交通量が多いため、歩行者の通行が危険な状況である。

本事業は京成本線との立体化により交通円滑化及び歩行者の安全確保を図るものである。

（規模）

- ・ 総事業費：80 億円
- ・ 事業延長：L=465m
- ・ 事業認可期間：平成 11 年度～令和 14 年度

【事業の進捗状況】

	全体計画（億円）	投資事業費（億円）	残事業費（億円）	進捗率（%）
全体	80	58	22	72

【社会経済情勢等】


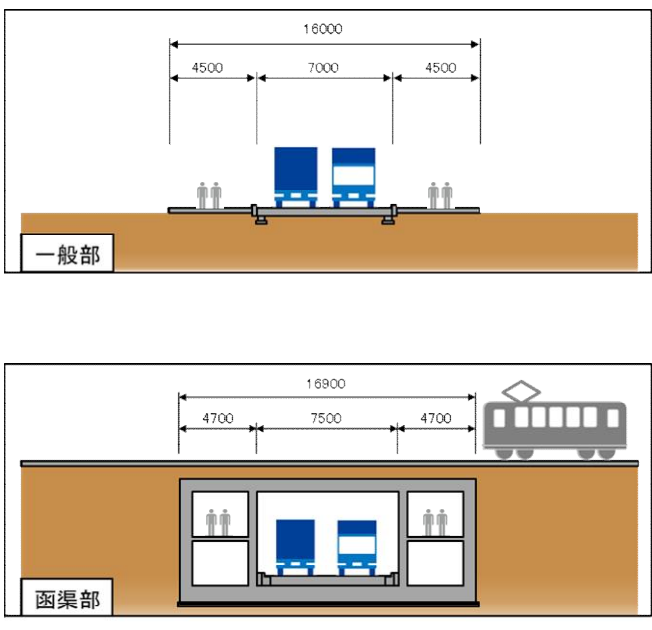
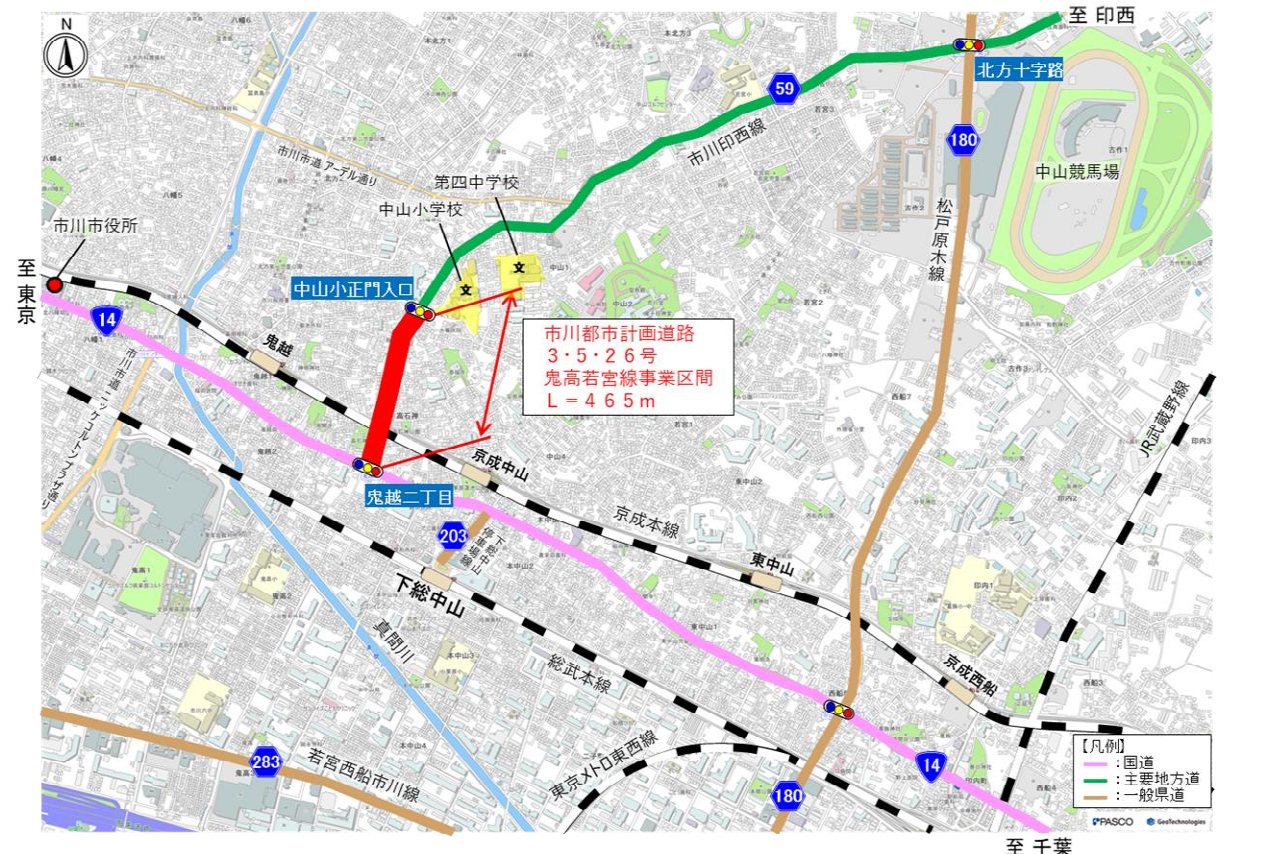
- ・ 交差している鬼越第 6 号踏切は、1 日遮断時間 7.7 時間、1 時間最大遮断時間 29 分と自動車交通を遮断しており、上り線では、印西市側に向かって最大 240m の滞留が発生し、下り線では、国道 14 号から鬼高若宮線への進入が出来ず、滞留が発生している。
- ・ 住宅地と駅や小中学校を結ぶ通勤・通学路となっているが、歩道未整備区間の路肩を通行している状況であり、利用者の安全性が確保されていない。

【対応方針（案）】

継続

費用便益比（B/C）が 1.3（残事業 7.9）であり、費用対効果が見込まれること、整備効果として、踏切起因による渋滞の解消、踏切遮断の解消など走行性の向上及び踏切事故の解消、歩道の設置による歩行者の安全性の向上、が期待されることから、事業を継続し効果の早期発見を目指したい。

事業概要図

番号	2	事業名	社会資本整備総合 交付金(街路事業)	路線又は箇所名等	市川都市計画道路 3・5・26号鬼高若宮線
<p>位置図</p> 	<p>標準断面図</p> 				
<p>平面図</p> 					

【別紙様式 5】

再々評価事業に関する調書

番 号	2	事 業 名	社会資本整備総合 交付金（街路事業）		路線又は箇所名等	市川都市計画道路 3・5・26号鬼高若宮線
事業化年度	平成 11 年度	用地着手年度	平成 12 年度	工事着手年度	令和元年度	
【再々評価（前回）の概要】						
再々評価実施年 度 （基準年）	平成 30 年度	供用開 始年度	平成 38 年度	対応方針	継続	
B / C	1.6 (7.4)	総費用	101 億円 (22 億円)	総便益	164 億円 (164 億円)	
※上段：全体事業 下段（ ）：残事業						
再々評価時の委員会の意見及び当時の状況						
○継続することが妥当である。						
・整備効果発現のため、早期の部分供用を図る。						
当時の状況						
進捗率は全体 65%（事業費）、用地取得面積 98%						
用地交渉に長時間を要し、事業が遅延している。						
再々評価時の進捗状況及び再々評価時想定の 5 年後の進捗状況						
	計 画	進捗状況（H30 末）	5 年後の想定進捗状況			
全体事業費	80 億円	52 億円 (65%)	71 億円 (89%)			
うち用地補償費	52 億円	45 億円 (93%)	52 億円 (100%)			
うち工事費	28 億円	7 億円 (22%)	19 億円 (68%)			
【再々評価（今回）の概要】						
再々評価実施年度 （基準年）	令和 5 年度	供用開 始年度	令和 15 年度	対応方針	継続	
B / C	1.3 (7.9)	総費用	120 億円 (20 億円)	総便益	159 億円 (159 億円)	
※上段：全体事業 下段（ ）：残事業						
現在の進捗状況						
	計 画	進捗状況 （令和 5 年度末見込み）				
全体事業費	80 億円	58 億円 (72%)				
うち用地・補償費	52 億円	49 億円 (94%)				
うち工事費	28 億円	9 億円 (32%)				
再々評価後 の経過 及び 処理状況	・工事、用地交渉を継続実施					